

**三井ベンチャーズ
i*deal Competition
開催概要**



芳川 裕誠
三井ベンチャーズ/株式会社エム・ヴィー・シー

開催のねらい

■背景

- iPhoneやAndroidの登場、SymbianOSのオープン化、BlackBerryの普及、並びに各種プラットフォーム上でのSDKの整備・公開

⇒モバイルプラットフォームの、世界規模でのオープン化・標準化の機会が出現

- 加速度センサ・GPS・カメラ・マイク・マルチタッチといった物理ユーザーインターフェースの発展とインテグレーションの進化

- 計算機としての、携帯ハードウェア性能の向上

■目的

- 今までに無かった、プログラマブル・高機能・多機能な携帯端末上での技術・サービスに関するアイデアの発掘と事業化可能性の発見

- 日本発のニューアイデアのCross-Boarderでの提案機会創出

募集内容

- iPhoneに代表される次世代モバイルコンピューティングで実現する、従来の携帯・PCでは実現されていなかったサービス・アプリケーションの開発プラン。
- 豊富な計算資源や新しいインターフェースなどを全面的に活用した、これまでの携帯電話では実現していない、全く新しいモバイル利用の提案がなされることを期待。

<留意事項>

開発成果物は必須とはしない。但し、最終選考プレゼンにおいて、実機もしくはエミュレーター上での稼働が確認できることが望ましい

プログラム開発と配布は、開発環境提供者等より個別に定められている利用規約のほか各種法令・規約を遵守の上、応募者自身の責任において行う。

開発したソフトウェアの著作権・所有権は開発者/開発グループに帰属することとし、配布ライセンスの有無並びにその種類は自由とする。

公序良俗に反すると判断されるサービス・アプリケーションの開発プランは審査の対象外。

実施概要1

■開催枠組

主催 : 三井ベンチャーズ（株式会社エム・ヴィー・シー）
公式サイト : <http://www.ideal-comp.jp>
協賛 : 株式会社アスキーメディアワークス
メディアスポンサー : 週刊アスキー、ASCII.JP、CNET Networks Japanほか

スケジュール

開催発表 : 2008年7月31日（金）
募集期間 : 2008年8月15日（金）～2008年9月30日（火）
一次審査／通知 : 2008年10月31日（金）
プランメンタリング : 2008年11月7日（金）～2008年12月19日（金）
最終審査・表彰式 : 2009年1月20日（火）（東京都内にて開催予定）

実施概要2

■参加要項

参加資格 : 個人若しくは個人のグループ
プランメンタリング並びに最終審査/表彰式に参加できることが条件

募集内容 : 前述

応募形態 : 所定のプラン要約書類を、Web Formより提出

- ・ 詳細説明資料として企画書・プレゼン資料等の添付は任意
- ・ プログラム等、開発成果物の提出については事前に主催者まで要相談

内容・審査 :

•一次選考

- ・ 指定するフォーマットでのサマリ並びに提出添付資料にて審査する

•プランメンタリング

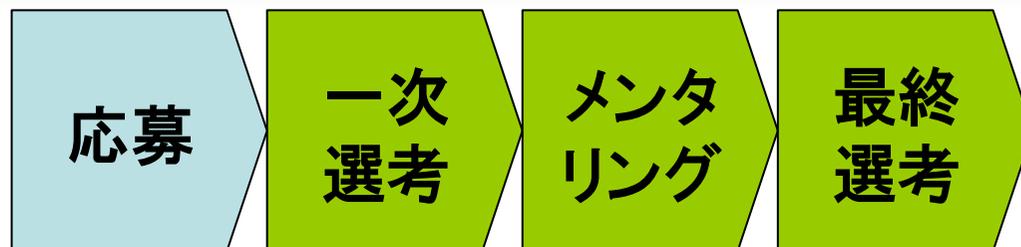
- ・ 審査通過者に対して専任メンターを配置、各種見地からアドバイスを行なう
- ・ メンタリング対象プランに対しては、事業化のための各種援助を実施

•最終審査

- ・ 最優秀プラン1点、優秀プラン2点を選出
- ・ 15分程度の発表（プレゼン）と5分程度の質疑応答を行ない審査

審査基準 : 新規性/技術的基盤の確かさ・妥当性/汎用性/継続性など

開催の流れ



■期間

2008年8月15日～2008年9月30日

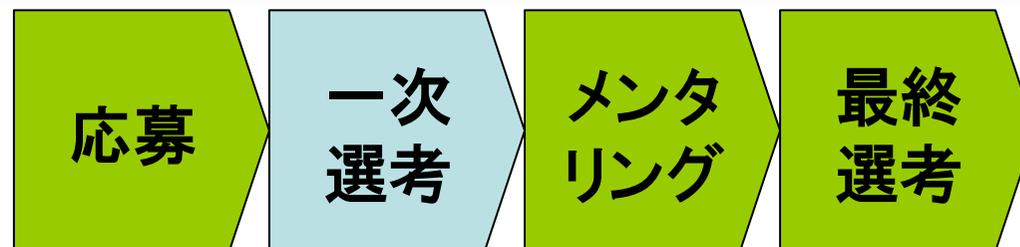
■応募要件

- 携帯端末上で実現されるアイデア、技術、サービス、又は、ビジネスであること
- 必ずしも実現済みである必要は無いが、その場合は実現可能性について言及すること

■募集要項

- 指定する応募フォーマットに従ったプラン要約を提出 (A4一枚程度)
- 詳細説明資料を添付 (任意)
 - PDF, Word, Excel, PowerPointフォーマットで送ること
 - ビジネスプラン・技術的根拠・アイデアの根拠などをかくこと
 - 特許や共同開発者などがあればそれを書くこと
 - 共同開発者などグループでの応募の場合それについて書くこと
 - プランの実現化によって便益をうける対象の明確化、並びに開発に必要なコスト・資材・人材・技術の明確化、実現性がプランに盛り込まれていることを奨励
- 開発成果物の添付については、提出前の事前相談を必須とする

開催の流れ



■期間

2008年10月31日までに通知

■内容

- 書類を基に審査を行なう
 - 必要に応じて面談・プラン説明の依頼を行う可能性あり
- 最終的に5組程度を選出

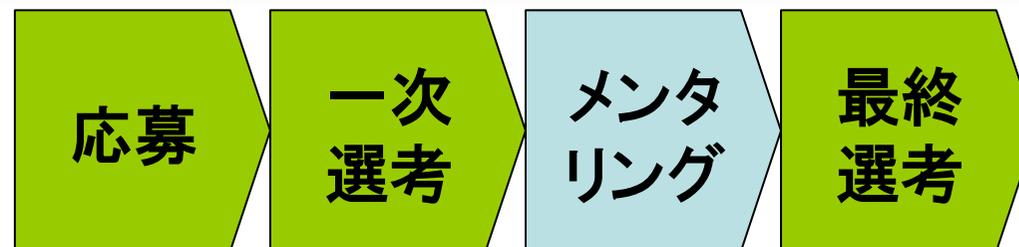
■審査基準

- 新しい携帯端末ならでの、ユニークなアイデア・技術であることを最重要視した上で、その実現妥当性、汎用性、ユーザの継続的利用可能性などを考慮に入れる

■審査

主催者・協力各社から選出された審査員による審査

開催の流れ



■期間

2008年11月7日～2008年12月19日

■内容

- 各チームに、主催者・協力各社から選出の専任メンターを配置
- 最終プレゼンに向けて、実務的観点からのアドバイス
- プレゼンテーションの内容のブラッシュアップ

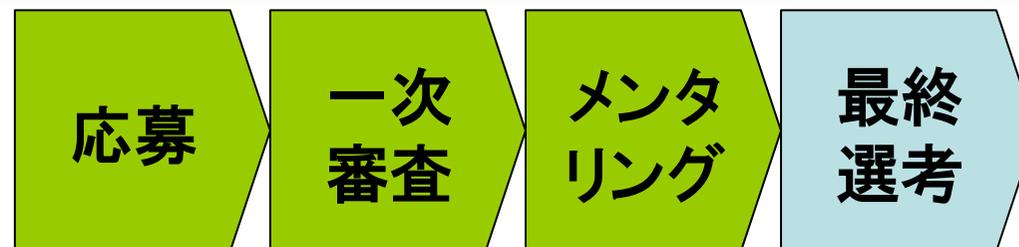
■方法

- 面談およびメールでのコミュニケーション
- 必要に応じて、外部アドバイザーの起用等も検討

■その他

- 三井ベンチャーズによる事業化の検討・事業化後の支援（応募者からの希望が前提）
 - 事業化資金投資を含む、多面的創業支援
 - 事業化後のグローバルなチャネル構築支援を含む、各種事業支援
- 日米スタートアップ企業の経営者・技術者とのネットワーキング

開催の流れ



■期間

2009年1月20日・東京都内にてイベント形式で開催予定

■内容

- 一次審査通過者による、プレゼン発表15分・質疑応答5分程度で行なう
 - ・PCを接続可能なプロジェクタと、実機が見えるように手元を移すことができる小型カメラを用意予定。
 - ・一般公開予定
- 審査員による最終審査を行ない、その後表彰式を催行

■表彰

- 最終審査を経て選出、表彰。メディアスポンサーより対外アナウンス
- | | | |
|--------|---|----|
| 最優秀プラン | - | 1点 |
| 優秀プラン | - | 2点 |

御連絡先

三井ベンチャーズ 芳川
yoshikawa@mitsuiventures.com

ベンチャーキャピタル(VC)?

- ちょっとだけ御説明。

シリコンバレーVCの投資例



- 1996年1月
 - Googleの原型となる検索エンジンを創業者(ラリー・ページ & セルゲイ・ブリン)が開発
- 1997年
 - ポータルへのライセンスを試みるが失敗(Exciteへの160万ドルの売却提案も受け入れられず)
- 1998年
 - 資金需要が発生。個人エンゼル投資家より朝食meetingで10万ドルの小切手入手し、バーガーキングで祝う。
 - 同年9月、セルゲイの彼女の友人のアパートの一室をオフィスとしてGoogle設立
- 1999年
 - ベンチャーキャピタルからの資金調達を開始(その時点でビジネスモデル未成立)
 - 6月セコイア・キャピタルとクライナー・パーキンスを含むVCから25万ドルを調達(Post-money Valuation 0.9億ドル)。



・ セコイア(ヤフーへの投資家)からはマイク・モリッツ、クライナー・パーキンス(AOLとエキサイトへの投資家)からはジョン・トアーが取締役として就任。

・ 経営戦略とビジネスモデルの方向性に付き助言。

- 2004年8月
 - NASDAQで株式公開。
 - IPO時点の時価総額246億ドル
- 現在 時価総額1,800億ドル

2000倍

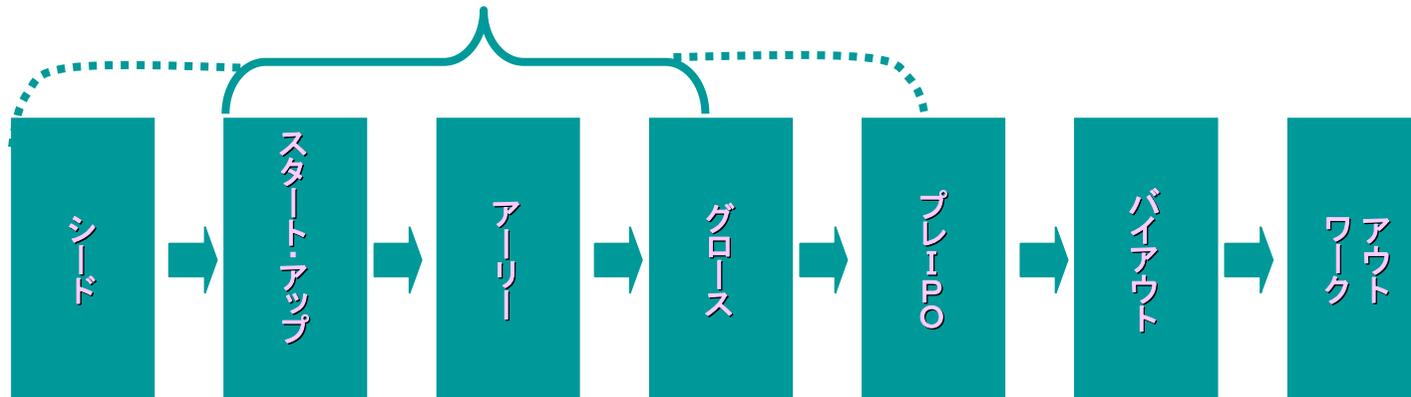
25万ドル x 2,000
= 500億ドル(5兆円)

ベンチャー投資とは？

◆ “ベンチャー企業”に対する投資

- 事業が立ち上がって経営が安定する前の段階の企業
→ 従って、未公開企業への投資が原則となる。

ベンチャー投資の一般的対象ステージ



◆ 金融投資

- 将来、投資先の株式が公開(IPO)したり買収されたりした際に、売却によってキャピタルゲインを狙う。

* なお、主に大企業が行うベンチャー投資で、Corporate Venture Capital(“CVC”)と呼ばれる戦略投資的色彩を伴うものもあり。

◆ ポートフォリオ投資

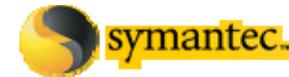
- ベンチャー投資は高いリスクを伴う → ポートフォリオ投資によるリスク分散

米国VCのベンチャー投資

◆米国のベンチャー・キャピタルが育てたIT企業



- Kleiner Perkins Caufield & Byers



- Sequoia Capital



ベンチャーキャピタルの機能

◆産業発展の促進者

= 新たなテクノロジーやビジネスモデルを世の中に出す
『触媒』ないし『原動力』

- イノベーションに不可欠なリスク・マネーの供給者
- イノベーションに不可欠な人材供給の媒介者
- イノベーションを成功に導く洞察と智恵の供給者
- イノベーションの企画・演出者



→ 世界を変えるイノベーションの創出

→ R&D(研究開発)のアウトソーシング

ベンチャーキャピタル事業とは？

“We are in the business of creating business, and sometimes creating industries; we are not in the financial transaction business. We are going to build companies.”

- Don Valentine, Sequoia Capital

『私たち(ベンチャー・キャピタリスト)のビジネスは、“ビジネスを創り出すビジネス”、時には“産業をも創り出すビジネス“です。私たちのビジネスは金融事業の範疇には属しません。私たちは、企業を築き上げて行くのです。』

[セコイア・キャピタルの重鎮 ドン・バレンタイン氏の言葉]

ベンチャーキャピタルの役割

- ◆ 事業の立ち上げに必要な資金の提供
 - 銀行等他の資金提供者が出せないリスクマネーの提供。
- ◆ ベンチャー企業の経営サポート
 - 取締役の派遣等を通じて、ベンチャー企業の経営につきモニタリング・助言を行う。
 - 事業戦略、成長施策、資本政策、内部統制等についての知見提供
- ◆ 事業展開上の支援提供
 - 提携先・顧客の紹介や人材の斡旋等の支援を行う。



新たな技術やビジネスモデルの事業化を促進

- * 目利き力 + ハンズオン(”Hands-on”)支援
 - = 自らの経営支援力やネットワークを、キャピタルゲインとして具現化する。

日本のベンチャーの課題

- ◆ 日本のベンチャーの課題・問題点の指摘・分析は尽くされた感あり。
『ベンチャー企業の創出・成長に関する研究会』2008年4月30日最終報告書等
 - 開業率・企業活動率/起業家に対する社会的地位の評価の低さ
 - 起業家教育の不足・インキュベーターの整備不足
 - 経営人材不足/優良人材確保の困難性(人材の非流動性)
 - ベンチャー企業向け人材市場の整備
 - リスクマネー不足
 - ベンチャーキャピタルの問題点
 - ・ ベンチャー投資の規模の小ささ/一件当りの額の小ささ、ベンチャー投資資金の拠出者の多様化の必要、アーリー段階投資回避の傾向
 - エンジェル投資不足
 - 株式市場の問題点
 - 株価・IPO数の低迷
 - ・ 新興株式市場における個人投資家優位の傾向、上場審査の厳格化、内部統制強化
 - EXITのIPOへの偏り
 - 大企業とベンチャーの連携不足
 - テクノロジー・アイデアを事業化することの困難さ
 - ベンチャー製品・サービスの大企業向け販売の困難さ
 - ベンチャー企業の国内志向

ベンチャーの成功に必要なもの

◆ ベンチャーの成功に必要なもの

● Idea(Technology) + People + Money

➢ 日本に優れたIdea/Technologyはあるか？

➢ ある → しかし実社会で実現しない。

➢ 日本に人材は存在するか？

➢ する。ヒトのポテンシャルが他国と比べて劣るとは思えない。

→ しかしベンチャーに出て来ない。

➢ 日本に資金はあるか？

ある → しかしリスクを伴うベンチャー投資に向けられていない。

● 各要素が機能的に回転していない。

● また、相互に有機的に作用していない。

= ベンチャーのためのインフラが整っていない。

* 米国や中国では、リスクを取る起業家・投資家が新たなイノベーションを産業界・社会に送り出している。

* そして相応のリターンが得られ、資金が循環している。

仮説と提言

◆ 健全な危機意識

- 日本のベンチャー投資というよりも、より広く日本の産業や経済に関する危機意識
 - イノベーション・革新が産み出され、育てられ、世に送り出されていない。
- 確かに複合的で解決が容易でない障害が存在
 - 先述の諸課題
 - 縦割りの産業構造と特殊な日本の市場状況
 - ・ ベンチャーによるInnovationが有機的に活用されにくい
 - 行政による適切な全体的方向感を欠いた規制環境
 - 失敗・再挑戦に寛容でない土壌

◆ 前向きで積極的な考え方

- しかし、日本の環境は絶望的ではない。
 - 基本的なものはある。アイデア/テクノロジーも人材も資金もある。
 - なお、活発に研究開発が行われ、経済規模も世界第2位
 - 公的な問題認識・変革の機運も高まっている。
- 適切にリスクを取る姿勢で臨み、決然と挑戦を続ければ開花する。
 - 米国ベンチャーも最初は苦戦した。
 - 起業家、企業・大学関係者、ベンチャーキャピタル、証券市場の投資家・・・
- 既に変化の兆しは見えている。→ 現在は『産みの苦しみ』の状況